



# 探究ニュース Access No. 46

発行日 令和8年1月26日

## 目次

- I 50期 中間発表&プロジェクト紹介
- II 49期 中間発表
- III 環境省への提言・京都大学連環・フォーラム発表

## I 50期 中間発表&プロジェクト紹介

12月18日に1年生の課題探究プロジェクトの一環として中間発表会がありました。八王子東高校では企業・大学・行政の皆さんから直接的な指導をいただき、10のプロジェクトが実施されています。生徒たちは自分の希望するプロジェクトに半年間所属し、5名程度で構成されるグループ探究を行います。その活動の中間報告として今回の発表会が行われました。中間発表会では自分が所属するプロジェクトの仲間のみならず、2年生にも発表を聞いてもらい、質問やアドバイスを受ける機会が設けられていました。プレゼンテーション能力や課題解決方法を見直していく力が身につけていました。ここからは、それぞれのプロジェクトのリーダーからの「プロジェクト紹介」をご覧ください！

### G1 生物探究

こんにちは！ 生物探究PJです。私たちのPJでは、生物に関する様々なことをテーマにして探究をしています。「ん、生物……？なんか定義広くないか？」そう思ったあなた……まさにそうなんです。このPJの魅力は、多種多様なテーマの発表が聞けること！例えば、「犬はなぜミミズの匂いを好むのか」や「植物に睡眠は必要か」などなど。他にも面白いテーマの発表がなんと計9班分！これはもう、行くしかないですよ！

### G2 政治とメディアとデモクラシー

我々政治とメディアとデモクラシープロジェクトでは、全員が文献をk講読し、外部からお招きした大学の先生を交えつつ議論をしました。そこで生まれた疑問から仲間とともにさらなる探究を続けています。SNSの影響が高まっている現代において大切な内容だと思しますので、ぜひご覧ください！

### G3 生態心理

私達は心理学の分野の一つ、環境と生き物の相互作用を考える「生態心理」という分野をもとにグループごとのテーマについて探究しています。難解な概念であるため、文献講読を行い理解するところから始まりました。

### G4 ゲーム理論

ゲーム理論は、「相手も自分と同じように考えて行動する」とき、どんな選択をすればよい結果になるかを考える学問です。じゃんけんや席替え、テスト前の勉強の分担など、身近な例を通して、協力やかけ引き、判断力の大切さを学ぶことができます！



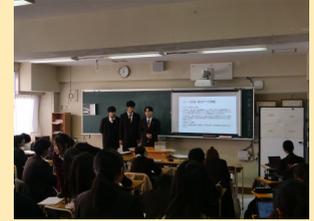
## K1 オープンデータ

このプロジェクトでは、公開されているオープンデータを組み合わせ、新たな活用方法を考えることを目標として探究をしています。興味のある分野ごとに2,3人のグループに分かれ、それぞれ異なったテーマで考えを深めています。きっと面白いアイデアがあると思うので、是非お越しください!



## K2 内視鏡によるがんの早期発見・早期治療

内視鏡によるがんの早期発見・早期治療プロジェクトでは、各チームが日本の医療機器メーカーであるオリンパスさんの協力のもと、オリンパスを実際に見学したり、アドバイスを受けながら探究活動を行っています。興味のある方は、ぜひこのプロジェクトにお立ち寄りください。



## K3 超小型衛星

こんにちは! 超小型衛星プロジェクトです! 私たちは株式会社インフォステラ様や都立大学の方にご協力頂きながら超小型衛星の開発プランを検討しています。超小型衛星のメリットを最大限生かして今ある社会問題の解決のための人工衛星をグループで話し合っています。それぞれのグループが互いの意見を交流させながら、素敵な衛星プランを考えています。ぜひ、聞きに来てください!



## K4 まちづくり

こんにちは! 地域活性化・まちづくりプロジェクトです! 私たちは、高齢化や過疎化、買い物不便地域など、地域にある課題を解決するための方法について考えています。身近なまちについての課題も多く扱っているので、是非お越しください!



## K5 超高齢社会と医療デザイン

そもそも超高齢社会とは、65歳以上の人の割合が全人口の21%を占めている社会のことを指します。超高齢社会と医療デザインプロジェクトはそんな超高齢化が進みゆく現代の医療現場の現状について医療従事者の方からお話をお聞きします。その上で、高齢者の孤独死問題など様々な観点から、問題の解決策や解決された理想状態を話し合い創造していくプロジェクトです。



## K6 英字新聞

英字新聞プロジェクトは、班ごとにテーマを決め、それについて調べたり取材をしたりして情報を集め、英語で記事を書いて新聞を発行するプロジェクトです。今年は、高尾山、八王子城の歴史、駅弁、音楽、着物をテーマに新聞作りを行います。

## 49期生からの アドバイス

- ・それって当たり前だね!のような思い込み(バイアス)は、論理性に不十分さを与えてしまいかねないので、素人でも当然だとわかる程度にまで理解し、説明できるとよいと思います。
- ・ただ書いてあることを読むのではなく、自分の言葉で噛み砕いて説明できると、満足感が違うと思う。まずなによりメンバー全員が内容をしっかりと理解する、そして各々全部を発表できるくらいしっかりと練習するのが大切です。
- ・グループでの探究は特に難しいと思いますが、複数人で意見をぶつけ合える楽しさを味わいながら試行錯誤して突き詰めることを最後まで諦めず探究Bを楽しんでください!
- ・自分では思いつかなかったけれど、一緒に回っていた人の質問を聞くと「確かにどうするんだろう」と思うことが多かったので、自分たち以外に内容を見せてみたり客観的に見たりす

るとよりよくなると思います。

- ・自分の興味関心のあることについてしっかりと調べていくことで進路などの将来の方向性が決まるので頑張ってください!
- ・1年生のときの探究A,Bの積み重ねが必ず2年生の探究につながるの、プロジェクトのみんなと協力しながら、自分たちの探究を深めていってほしいと思います!
- ・アンケートは予想した結果になるように誘導しないように注意すべきだと思います。選択肢の案を自分が想定しているものだけにしないようにするなど。
- ・出所が不明なところからの情報収集は避けた方がよいと思います。環境庁や厚生労働省などの政府の機関や、会社の公式ホームページ、直接取材など信用できるところからの情報収集が大切だと思います。また、取材の際は、お忙しい中自分たちのために時間をとってくださる方がいらっしゃるの、感謝を忘れないでください。

## Ⅱ 49期 中間発表

11月5日には、2年生も課題探究の一環として中間発表がありました。教室と各階の特別教室をフルに使い、2年生全員が一人ずつ、自分のテーマ・仮説・今後の研究計画について発表しました。外部の大学の先生や民間企業の方々、そして行政の皆さんにも見ていただき、質疑応答や意見交換を行いました。実社会で活躍されている先生方からの指摘を受け、改善すべき課題が明らかになりました。



### 50期生からの 感想・コメント

- ・テーマや動機を具体的でわかりやすいものにし、多くの人の興味を引くことができるようにしたい。論文に図や表を入れてそれを活用しながらわかりやすく発表ができるようにしたい。
- ・相手に分かりやすいように、何故これをやろうと思ったかや、新しい知識の解説などを重点的にやってくれていたのが分かりやすかったので自分も相手が知らないところと、知っていて共感しやすいところを強調して発表したいと思った。
- ・先輩たちはスライドで写真などを用いながら発表を行っていたので、私も聞く人にわかりやすいように図やイラスト、写真などを用いながら発表したいと思いました。また、書いてあることを読むだけでなく、わかりやすい言葉に言い換えてくださったので、私も聞く人のことを考えた発表をしたいです。
- ・やはり、図やグラフを使っていたり、実際に実験・フィールドワークを行ったものは説得力があるなと思った。また、1つの結果を色々な視点でみて考え、さらに新たな課題を生んでいくというサイクルのある探究はとても良かったから、自分もそのサイクルを作れるように、頑張りたい
- ・実験をするときは回数を多くしてちゃんと実験結果を充実させる。また、先行研究ばかりに気を取られるのではなく、結果にも比重を当てようと思った。

- ・中間発表までに自分が『なぜ』と思う事は、最後まで諦めずに調べていこうと感じました。発表する際にどこに説明する時間を割くか考えて発表していきたいと思いました。
- ・ただ調べたことをまとめるのではなく、その道に専門的な知識を持った人にインタビューをするなどで手に入れた自分たちの情報が意見の裏付けとなるような発表をしたいと思います。
- ・事前研究などの根拠がたくさんあると、説得力のある発表だったので、テーマに対して複数の視点から調べて行きたい。
- ・先輩たちの発表では身振りや手振りで論文の内容をよりわかりやすく伝える努力をしていたり、伝えながら聞いている人の目を見るなどして反応を伺い、理解できているかを探っていたので実践したいと思った。また、専門用語を使いすぎてしまうとかかりにくくなることも感じたのでわかりやすい言葉で内容を伝えることが大事だと感じた。
- ・アンケートの結果や割合をグラフ化して見えやすくしたり考察の際、なぜそうなったのか、深堀して分析する。また他の調査結果と結び付けたりさらに問いに対して幅広い視点から探求できるよう背景も考える。
- ・根拠のある発表だと伝えたいことが明確になっていたのであやふやにせず、なぜそう考えたのか、どのような方法を用いたかをはっきりと伝えたい。また、結論から述べて、原因を語ると、無駄な情報がなくなり簡潔な発表になると気づいた。

## Ⅲ 環境省への提言とフォーラム発表

### 福島研修プロジェクトが環境省を訪問し、活動の提案をしました

12月19日、有志で集まったプロジェクトである「福島研修プロジェクトチーム」が、日比谷高校の生徒さんたちといっしょに環境省を訪問しました。夏に行われた現地宿泊研修で学んだことをもとに、福島の人々の考える「復興」と行政の方々の考える「復興」の2つの視点についてや、東日本大震災の遺構の扱い、そして若者への周知方法についての提言を行いました。環境省の皆さんから本活動内容への評価もいただき、高校生の探究活動が実社会へとつながる機会となりました。



### 京都大学高大連環プログラム 湧水フィールドワークがありました



12月20日、日野市カワセミハウスの森林インストラクターである田中徹さんのご指導のもと、日野市豊田周辺の用水路と湧水についてのフィールドワークを行いました。メンバーは有志で集まった「京都大学連環プログラム多摩川・浅川プロジェクトチーム」です。フィールドワークを通して、地域の方々と用水路・湧水との関わりや、用水路・湧水が作り出す人と自然とのつながり、そして都会でありながらも水が生物多様性を保っていることを学びました。田中徹さんからの温かい心遣いにより、地域の皆さんの住宅の中までおじゃまし、湧水がもたらす人の生活を、実際に住んでいる方々から聞くことができました。本内容は3月に京都大学行われる京都大学・イオン環境財団 森里海シンポジウムで発表予定です。

### 東京都Tipsフォーラムで2年生の長森さんが探究を発表しました

12月26日、東京都主催のTipsフォーラム2025に本校代表として2年生の長森珠美さんが「勉強において集中力を高めるための照明の明るさと色温度の探究」を発表しました。複数の図書館や有料ワークスペースの照度測定といったフィールドワークや、暗記実験を通じた具体的なデータから、集中力を高め、暗記力を上げるためには、世間一般に設定されている照度よりも若干明るくすることが効果的であることを見いだした新規性のある探究です。有明GYM-EX会場で国際学会さながらの雰囲気の中、多くの人たちとの意見交換ができました。トークセッションには、さかなクンと伊沢拓司さんとのトークセッションもあり、充実したフォーラムとなりました。

